

鉄道6 土讃線(香川県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川11	香川県教育委員会編「香川県の近代化遺産」(香川県教育委員会、1995年)、175頁	猪ノ鼻隧道の特徴 (中略) ③隧道の竣工により、徳島県西部・高知県が鉄道路線によりアクセスされ、四自動車交通路としての四国新道とともに、国内陸部の旅客・貨物の流れを香川県経由に固定させる効果をもたらしたこと。
香川86	仲南町誌編集委員会編「仲南町誌」(仲南町、1982年)、1015頁、1017頁	土讃線の開通 (中略) そして、いよいよ大正一二年(一九二三)五月二日琴平～財田間開通のはこびとなった。 (中略) 鉄道は陸上交通の重要機関として産業・経済・文化・国防その他あらゆる方面に密接な関係を持ち、我々の日常生活に一日も欠くことのできない施設となった。開通当時「陸蒸気」とも呼ばれていた汽車によって我が仲南町の産業・文化にいちじるしい発展をもたらした。 そして、昭和四年(一九二九)四月二八日土讃線は阿波池田まで開通してますます近代交通文化の恩恵に浴するようになった。
香川90	新修財田町誌編纂委員会編「新修 財田町誌」(財田町、1992年)、707頁	土讃線の開通 (中略) 昭和四年に琴平・池田間が開通して以来、約六〇年の歳月が過ぎた現在、大久保謙之丞が提唱した夢の架け橋(鉄道併用の瀬戸大橋)も開通した。本州までの時間が一層短縮され、人や物の流れをスムーズにし、文化や経済の進展に拍車かけられるようになった。
香川92	高瀬町編「高瀬町史 通史編」(高瀬町、2005年)、515頁	讃岐鉄道の開通 (中略) 讃岐鉄道の琴平停車場は神明町(今の琴参閣付近)に設けられ、また開通当初、琴平と多度津の間には吉田(善通寺)停車場が設けられていた。麻や二ノ宮からは坂越えではあるが、琴平・善通寺に通じ、必要があれば村民は汽車を利用することができた。例えば、麻尋常小学校の修学旅行が始まったのは一八九九(明治三十二)年四月からであるが、学校―善通寺―多度津―海岸寺―詫間―仁尾(泊まり)―観音寺―本山―学校のコースのうち、善通寺から多度津までは汽車に乗った。一九〇二年、高松で関西府県連合共進会が開催された際も、善通寺から汽車に乗り見学に出かけた。 また、麻村で筍の出荷が始まると、琴平や善通寺はもちろん、貨物列車で市場網を広げることができた。
四国14	四国鉄道75年史編さん委員会編「四国鉄道75年史」(日本国有鉄道四国支店、1965年)、63頁	土讃線の全通 (中略)最後に10年11月三縄・豊永間が、国境の大歩危、小歩危の峡谷部で接続し、高松・高知間が全通したのである。 これによって、四国山脈にはばまれていた徳島、香川との交通はもとより、中国、阪神地方とも線路を通じ、人の往来、思想の流通、物資の交換など産業文化の画期的発展を期待できると、地元新聞は5段抜き4本見出しで報じ、土讃線全通記念の<南国土佐大博覧会>が高知で催された。 明治26年に土佐鉄道協会が発足してから42年目、須崎・日下間をはじめて汽車が走ってから11年目に、高知は陸の孤島から脱したのである。

鉄道6 土讃線(香川県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
四国15	四鉄史編集委員会編「四鉄史」(四国旅客鉄道、1989年)、52-53頁	<p>土讃線の全通 (中略)10年11月28日に三縄・豊永間が、国境の大歩危、小歩危の峡谷部でつながり、高松・高知間が全通した。</p> <p>これによって四国山脈に阻まれていた徳島、香川との交通はもとより、中国、阪神地方とも線路を通じ、人の往来、思想の流通、物資の交換など産業文化の画期的発展を期待できると、地元新聞は5段抜き4本見出しで報じ、土讃線全通記念の「南国土佐大博覧会」が高知で開催された。</p> <p>明治26年に土佐鉄道協会が発足してから42年目、須崎・日下間を初めて汽車が走ってから11年目に、高知は陸の孤島から脱したのである。</p>